

令和5年度 園評価書

園番号 3 園名 安倍口中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
自分で考えて行動する子	「やってみよう」を広げよう	ありのままの姿を受けとめ、寄り添い認めていくことで、「自分ですごいね」と自信をもって、生活や遊びを楽しむ姿がある	丁寧な寄り添いながら思いを受けとめ、共感するようにした。また、頑張っている姿を具体的にほめていくことで、達成感を味わい自信がもて、生活や遊びを楽しむ姿がある	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年からの継続し遊びの改善に努めている個人レベル、園レベルがあるため保育者の評価はそれぞれだが、「育てたい姿」が見えてくれば自ずと環境が見えてくる保育者が「次はこれ」とレールを敷いてしまおうのではなく、どんな経験をしてほしいと願いを持ち保育していけば、子どもの発見や気付きがはじまる。「こんなふうになってほしい」という保育者の願いが弱いように思う 	寄り添い認めていくだけでなく、次へのステップになるような声掛けを行っていく。また、集団の中で個を認める言葉が発信し、子ども同士でもお互いを認め合えるようにしていく
		遊びの環境を整えることで試したり、工夫したりしながら、「やってみよう」と意欲的に遊んでいる姿がある	室内では、自分から選べる環境を整えたことで試したり工夫したりしながら遊ぶ姿があるが、園庭環境は変わらず整えられていない。乳児組では、短期間でクラスや担任の変更があり、環境を作ることができなかった	C	B		週案会議で遊ぶ姿の共有はあるが、あそびの具体的な環境の実践や育てたい姿の共有ができていないため、今後、職員で共有し計画・実践していく
		気付いたことや、やってみようの思いを発信し受けとめられる経験を重ねることで、自分なりの方法で表現する姿がある	子どもの思いやアイデア、発見を受けとめるようにしたことで、「すごい、素敵、おもしろい」と感じたことを、嬉しそうに発信する姿があった	B	A		発信が苦手な子の思いを汲み取り、他者に伝えたい気持ちを大切にしながら、その子なりの表現ができるようにしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園児一人一人の「育てほしい姿」をふまえて家庭や他機関と連携をとりながら個に応じた援助を行っている	ドキュメンテーションに「就学前までに育てたい10の姿」を記入することで、個やクラスでの育ちを保護者と共有できた。また、送迎時や日々のボード、園だよりやクラスだより、連絡ノートやホームページなどで子どもの育ちを発信している	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者一人一人の視点が違うため、園全体で「遊びの場作り」について研修のやり方を考えていかないとけない ・保育者が担当、担任だからという気持ちではなく子ども一人一人の満足度を考える意識をもてば保育が変わっていくと思う ・保護者でボードを見ていない人が多いと感じている。保護者の方の意識も変えていかないと ・ホームページなど毎月出したり、今日の様子をメール発信すると保護者も共有できると思う 	何を育てたいかが明確になるよう、一人一人の「育てほしい姿」を学年ごと可視化し、職員や家庭と共有していく
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	生活に必要な習慣や態度を身に付け、自分でやってみようとする意欲が育つように努めている	B	B		職員の人数が多く手を出しすぎてしまうことが多いため見守り自分でできた達成感を味わえる援助を行っていく。また、自分で気付き行動に移せるよう引き続き声を掛けていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	遊びの壁新聞やドキュメンテーションを利用し可視化することで、子どもと一緒に振り返りを行うことが出来た。日誌に明日の遊びに向けた考察案をつかったが、保育者の振り返りにとどまった	B	B		今後も必要に応じて効果的な写真や動画の利用を考えていく。行事ばかりではなく乳児では生活面の写真も保護者と共有できるようにしていきたい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練、不審者訓練の反省やヒヤリハットを記録し、課題を明確にすることで事故防止や安全確保に努めている	毎日の固定遊具の確認や状況を変えての避難訓練、不審者訓練が計画的に実行された。ケガやヒヤリハットを記入し統計をグラフにすることで、職員で危険箇所などを共有することが出来た	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のワンポイントを口頭で伝えるなど、人数が少ないこの園だからやれることだと思わず、取り組んでほしい 	課題の周知や改善策等が徹底されていないため、会議などで話し合う時間がもてるようにしていく
		3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	栽培・食育活動を通して、健康的に過ごせるような環境をつくっている	季節の野菜を栽培、収穫してクッキングを行ったり、親子で栽培収穫等「親子で食べよう会」を実施したりし、旬のおいしさを保護者とも共有できた。調理員が食材や調理の説明を子どもたちに行い、苦手なものも食べてみようとする姿につながった		A
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	会議で話し合ったり、職員間で伝達ノートを利用したりし、全職員が子どもの育ちや支援方法を共有して、同じ援助ができるようにしている	個々の特性を理解し加配保育者が援助を行っている。週案会議などで各担当が個々の発達を伸ばす振り返りを行っているが、その内容が他の職員においてこそ、支援方法の共有ができなかった	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・この地区は地下水が豊富な地区なので、避難地でもあるこども園に、発電機を併用した井戸を作っている水対策としてよいのではないかと。災害時に備えて、対応していけるようにしたい 	特別支援の園内研修計画を立て実施し職員で共有していくことで、職員の資質向上を図っていく。
		5 組織運営	(1)組織体制の充実	報告、連絡、相談を意見交換を行いながら、保育教諭や調理員が自分の役割を意識して園運営に努めている	B		B
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修で学んだことや得たことを全職員で共有し重点目標や研修テーマの実現につなげている	園内研修が計画的に実施されなかった。公開保育・事後研修の学びが、次の公開保育に活かされたり話し合われたりしていない	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会に来てくれることで老人が元気になるので、今後も交流を続けてほしい 	年ごとに状況が変わってしまうため、誰が研修主任になっても、ある程度のレベルが維持できるようなシステムづくりを行ってほしい。園内研修後、保育に活かそうと思えるような研修を行っていく
		7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	教材研究を行いながら遊びが創り出せる環境を整え、好きな遊びを十分に楽しむための工夫や時間の保障を行っている	B		B
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	写真を使いながら日々の保育や子どものよさを伝え、園児の育ちや学びを家庭と共有している	参加会で面談を行ったり、毎日の様子をボードや連絡ノートで保護者に知らせたりした。また、ドキュメンテーションやパワーポイントを使用し家庭と共有した	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係の中で、子どもの育ちや様子を伝え合っていきたい 	運動会だけでなく、近隣園と関わる機会がもてるよう計画していく
		9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園と散歩に出かけたり、給食参観や公開保育、公開授業に参加したりすることで、情報を共有し連携を深めている	A		A
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	自分たちが住んでいる地域に親しみを感じ豊かな生活体験が得られるよう地域資源をいかにしながら挨拶をしたり交流を図ったりしている	アカデ美や児童館訪問、地域の夏祭りや老人会への参加ができた。収穫した野菜や手作りカレンダーを送るなど、地域の方との関りが感じられるような取り組みを行った	A	A		